

プチリフォーム紹介

工事の幅は広く、些細なことから規模が大きいことまであります。
日頃、イッシン・リファインおおがきのお客様からの依頼のなかでちょっとしたことでも気軽に「やってみようかな!？」と
思っていただけの施工例をご紹介します。

お施主様が高齢になられ、段差だらけの玄関周りをつまづいたり、転倒しかけたりした為、段差を解消すると共に、将来車椅子になっても安心して生活できるように考えてほしいとのご依頼をいただきました。

手摺・スロープ
取付施工

Before



After



スロープにすることで段差は解消され、転倒の心配もなくなりました。
今は歩行できるので補助の為に外部手摺を取付して、さらに安全を確保しています。
通路幅も取ってありますので、車椅子でも充分に通ることができます。

～その他施工例～



～Point～

手すりがあると転倒や事故の防止につながります。
室内だけでなく、外部にも危険はある為、取り付ける位置、周辺の状況、スペースも考えるとより危険を減らせます。
高さは、80 cm前後にし本人の使いやすい位置、握りやすい太さと形状を考えるとよりいいです。

今、コロナ禍で家にいる時間が増えました。
その中で家のなかや外廻りが色々気になってきます。
少しでも心地よく、快適に過ごせるようにとのお声も耳にします。お気軽にご相談ください。

Panasonic リフォームClub
リファインおおがき

株式会社イッシン

〒503-0917 大垣市神田町1丁目76

TEL:0120-36-1198

TEL:0584-82-3611
FAX:0584-82-3633

URL: <http://issin.reform-c.jp> E-mail: info@issink.jp

建設業許可/岐阜県知事許可(般-24)第12834号 一般建築士事務所登録/岐阜県知事登録第8828号



暮らしの コーディネート ～第1回～

今月のKEYWORD

『ハザードマップ』

災害発生時に危険と思われる箇所や避難場所などが示された「被害予測地図」のこと。地震や洪水など災害の種類によってマップが異なり、どこに避難すれば良いのか、どこで家族や知人と待ち合わせれば良いのかなどの対策を立てるのに役立ちます。ハザードマップを手に入れて終わりではなく、災害時に活用できるよう日頃から確認しておくことが大切です。



「自助」、地域で助け合う「共助」、行政の取り組み「公助」の3つの連携がとても重要です。しかし行政自身が被災して機能できない

近年、全国各地で記録的な大雨が観測されるようになり、災害リスクが高まっています。また、地震や火山などの自然災害も多発しており、災害に対する備えの重要性が増しています。災害の被害を少しでも減らすためには、自分の身は自分で守る

防災の基本は「自助」

どんなときも安心できる住まい

い場合も考えられ、災害の規模が大きくなればなるほど迅速な支援は難しくなります。そこで大切なのが、自助による防災・被災の対策です。そして、あらかじめ危険性を把握できるハザードマップの活用が重要視されています。



災害に備える 住まいづくりを

新型コロナウイルスへの感染が継続する中、災害発生時には「在宅避難」という選択肢が出てきました。

ハザードマップが「災害への備え」という意味では、在宅避難を視野に

入れた住まいづくりも災害への備えの一つ。災害発生後も身の安全が確保でき、住み続けられる安心な住まいが必要です。

例えば、エコキュート。電気の供給がストップしてもしばらくは給水できるものもあります。IHクッキングヒーターは、火を使わない安心感はもちろんのこと、安全機能が充実している。火災による二次災害も防げます。地震に強い造り付け壁面収納にする。転倒による事故防止や避難通路の確保にもつながります。

このような災害に備えた住宅設備を取り入れたリフォームをすることで、大切な家族をもしもの時にも守れる安心の住まいになります。